東京大学泌尿器科教室における1962年度
外来入院患者及び手術術式の統計的観察

東京大学医学部泌尿器科教室
(主任：市川篤二教授)

教授市川篤二
講師和久正良
助手中内浩二
大学院学生郷路勉
助手寺脇良郎
助手岡田清己
助手上野精
助手横山正夫
助手星野嘉伸
大学院学生河辺香月
助手仁藤博

STATISTICS ON OUTPATIENTS, INPATIENTS AND OPERATIONS IN
UROLOGY DEPARTMENT OF THE UNIVERSITY OF TOKYO IN 1962
Tokuji Ichikawa, Masayoshi Waku, Kōji Nakauchi, Tsutomu Gōro, Yoshirō
Terawaki, Kiyoki Okada, Akira Ueno, Masao Yokoyama, Yoshinobu
Hoshino, Kazsuki Kawabe, Hiroshi Nito
From the Urology Department, Medical Faculty, the University of Tokyo
(Director : Prof. T. Ichikawa)

I. 緒 言

1962年度の東大医学部泌尿器科教室における外来，入院患者の疾患及び手術術式について，その統計的観察を報告する．資料の取扱いは従来の方法に従った．本統計の方法の原則は各種泌尿器科疾患を臓器別に分けて分類する方法をとっているが，その上に系統的分類法を加味して各系統的疾患の総計をかかげている．

II. 外来患者

第1表に示した事からみると，本年度の特徴は患者総数は過去2～3年と大なる差はなく，又泌尿生殖器結核が昨年は減少したが再び一昨年の数に比してほぼ同数となった．内分泌，男子不妊症関係は毎年分類の方法を学問の進歩に従って少づづゝ変えてはいるが，この方面も着実に発展している．今回は各科に対する Consultation が更に増加し，紹介状により我々の意見を求められることが更に多くなり，従ってこれ等統計上にもかなりの影

第1表 東京大学泌尿器科教室1962年度外来患者総数4621名男3173名女1448
名男：女＝2.19：1

泌尿生殖器結核	272	5.9%
尿路結石症	284	6.2%
非結核性膀胱炎	332	7.2%
膀胱腫瘍	79	1.7%
前立腺腫瘍	112	2.4%
内分泌疾患，男子不妊症	329	7.1%
淋疾関係	254	5.5%

響が加わつてきている．この Consultation の傾向は今後ますます強くなるものと予想される．

1. 泌尿生殖器結核

腎結核患者は1945年以後生活条件の改善と共に年を追ひて減少はしているが，腎結核手術後単腎にて健康診断的意味の followup のために来院する者を除いても腎結核患者は本年は 142名を数える．この中には前年度より

第2表 泌尿生殖器結核とその合併症

主 疾 患	男	女	計	合 併 症											計			
				膀 結	胱 核	左副 丸結核	右副 丸結核	兩副 結	側 辜 核	副結 手 術	辜丸 核後	精 結	管 核	精囊 結核		腺核	前立 腺核	尿 道 狹
左腎結核	36	14	50	19				3	1	1			4					28
右腎結核	23	13	36	16	1			2	2			1	4	1		1		28
兩側腎結核	8	10	18	5	2			1	1				3	1				13
腎結核手術後單腎	60	44	104	21	1	1		2	10			1	3	1		3		43
殘腎結核	16	9	25	4				1	5				3					13
腎結核		1	1															
腎結核？	7	5	12	5				1					1					7
左副辜丸結核	10		10															
右副辜丸結核	12		12										3					3
兩側副辜丸結核	2		2															
副辜丸結核術後	17		17		1								5					6
前立腺結核	1		1															
陰莖結核疹	1		1															
計	176	96	272	70	5	1	10	19		1	2	26	3		4			141

第3表 尿路結石症

疾 患 名	男	女	計
腎結石	56	23	79
尿管結石	138	47	185
膀胱結石	7	4	11
尿道結石	3	0	3
前立腺結石	3	0	3
上部尿路結石の疑	9	8	17
計	216	82	298
患者実数	207	77	284

第4表 非結核性膀胱炎

疾 患 名	男	女	計
急性膀胱炎	17	61	78
出血性膀胱炎	6	10	16
亜急性膀胱炎	3	19	22
慢性膀胱炎	3	10	13
膀胱炎	40	91	131
濾胞性膀胱炎	0	5	5
膀胱三角部炎	0	5	5
尿道膀胱炎	4	23	27
放射線性膀胱炎	0	11	11
膀胱周囲炎	0	1	1
肉芽性膀胱炎	0	1	1
間質性膀胱炎	0	1	1
膀胱炎(既往)	3	18	21
計	76	256	332

第5表 前立腺疾患

疾 患 名	例 数	手術後
前立腺肥大症	64	17
前立腺肥大症の疑	7	0
前立腺癌	22	1
前立腺癌の疑	1	0
急性前立腺炎	6	0
慢性前立腺炎及び類似症状	87	0
前立腺症	38	0
前立腺萎縮	2	0
前立腺液漏	2	0
前立腺膿瘍	1	0
計	230	18

第6表 男子淋疾と合併症並びに関係事項

主 疾 患	数	合 併 症		
		副 辜 丸 炎	前 立 腺 炎	計
急性淋疾	11	0	0	0
慢性淋疾	0	0	0	0
淋疾後尿道炎	4	0	0	0
淋疾後尿道狭窄	22	0	0	0
淋菌検査	176	0	0	0
計	213	0	0	0

女子淋疾並びに関係事項

主 疾 患	数
急 性 淋 疾	1
子 宮 内 膜 炎	0
子 宮 頸 管 炎	16
膺 炎	10
淋 菌 検 査	14
計	41

第 7 表 腎及び尿管の疾患

疾 患 名	男	女	計
馬蹄鉄腎	0	2	2
重複腎盂尿管	3	6	9
囊 胞 腎	4	3	7
腎無形成	2	1	3
腎回転異常	5	1	6
遊走腎及び腎下垂症	14	41	55
痛 風 腎	1	0	1
腎性侏儒	1	0	1
腎 囊 胞	2	1	3
腎 外 傷	2	0	2
膿 腎 症	0	1	1
腎 膿 瘍	0	1	1
フィラリヤ症	2	0	2
腎 腫 瘍	6	5	11
腎腫瘍（術後）	3	4	7
水 腎 症	9	18	27
水腎症（術後）	0	7	7
腎出血（特発性）	45	24	69
腎 炎	17	9	26
ネフローゼ症候群	4	5	9
萎 縮 腎	2	1	3
尿 毒 症	0	1	1
腎盂炎及び腎盂腎炎	12	28	40
急性腎不全	1	1	2
尿管性尿失禁	0	3	3
大静脈後尿管	1	0	1
尿管腔瘻	0	4	4
尿管狭窄	3	4	7
尿管狭窄（術後）	0	1	1
尿管腫瘍	1	0	1
尿管外傷	0	2	2
尿管瘤	3	1	4
尿管瘤（術後）	0	1	1
計	143	176	319

第 8 表 膀 胱 疾 患

疾 患 名	男	女	計
膀胱腫瘍	43	14	57
膀胱腫瘍（術後）	18	4	22
神経因性膀胱	34	29	63
膀胱憩室	0	1	1
膀胱腸瘻	1	2	3
膀胱腔瘻	0	6	6
膀胱異物	0	1	1
膀胱頸部緊縮症	6	0	6
膀胱頸部ポリープ	0	1	1
巨大膀胱	1	0	1
計	103	58	161

第 9 表 尿 道 疾 患

疾 患 名	男	女	計
尿道下裂	14	0	14
単純性尿道炎	163	10	173
尿道狭窄	35	4	39
尿道破裂	1	0	1
尿道腫瘍	1	3	4
尿道カルンクルス	0	41	41
尿 道 瘻	2	0	2
尿道周囲膿瘍	0	1	1
尿道外傷	3	0	3
尿道憩室	1	0	1
尿道直腸瘻	2	0	2
尿道腔瘻	0	1	1
尿道口糜爛	0	1	1
尿道出血	0	1	1
尿 道 瘤	0	1	1
尿 道 脱	0	2	2
計	222	65	287

ひきつづいて長期化学療法のために通院しているもの、他医師により既に診断、治療をうけてはいるがConsultationとして来院したものもあり、これ等を除いてもまだ100名近い腎結核患者が1年間に訪れることはまだまだこの方面も重要な部門であることを示している。

2. 尿路結石症

今回は前年度に比して284名とかなり減少した数を示したがその原因は不詳である。内訳については前年度と大差はない。

3. 非結核性膀胱炎

今回は再び2, 3年前の状態に復し, 332名を数え

第10表 睪丸・副睪丸・精囊腺の疾患

疾 患 名	例 数
停留睪丸	65
睪 丸 炎	4
耳下腺炎性睪丸炎	1
睪丸過敏症	21
男子不妊症	132
無精子症	64
乏精子症	53
その他未検査	15
睪丸腫瘍	11
睪丸腫瘍(術後)	3
陰囊水瘤	40
精索水瘤	3
単純性副睪丸炎	58
精 索 炎	0
精系静脈瘤	7
精 液 瘤	9
計	486

第12表 其の他の疾患(1)

疾 患 名	男	女	計
性的神経症(含陰萎)	49	0	49
早 漏	7	—	7
神経性頻尿	46	65	111
夜尿症	41	46	87
昼夜尿症	2	0	2
尿失禁	4	14	18
排尿困難	2	0	2
腰 痛	2	3	5
腹 痛	11	6	17
血精液症	10	—	10
血 尿	15	7	22
乳糜尿	5	3	8
蛋白尿	17	11	28
塩類尿	1	0	1
高血圧	20	22	42
計	232	177	409

第11表 陰茎、陰囊及び女子外陰部疾患

疾 患 名	男	女	計
仮性半陰陽及び半陰陽	12	11	23
類宦官症	78	—	78
包 茎	94	—	94
陰茎外傷	2	—	2
陰茎異物	8	—	8
亀頭包皮炎	23	—	23
陰茎糜爛	7	—	7
陰茎潰瘍	2	—	2
形成性陰茎硬結症	5	—	5
陰茎アテローム	2	—	2
尖圭コンジローム	2	—	2
陰 茎 癌	14	—	14
陰囊糜爛	1	—	1
陰囊アテローム	2	—	2
陰門腔炎	—	10	10
陰囊異物	1	—	1
陰囊血腫	5	—	5
計	258	21	279

註：仮性半陰陽及び半陰陽中、男子の中に真性半陰陽3例を含む。男子として育てた。

第13表 其の他の疾患(2)

疾 患 名	男	女	計
褐色細胞腫	0	1	1
クッシング氏症候群	0	5	5
アルドステロニズム	0	2	2
副腎性器症候群	1	5	6
下垂性性侏儒	1	8	9
巨人症	2	2	4
シモンズ氏病	0	3	3
思春期早発症	1	0	1
後腹膜腔腫瘍	1	0	1
腹部腫瘍	8	12	20
潜伏梅毒	14	11	25
痛 風	2	0	2
ワッセルマン反応依頼	4	0	4
精管結紮依頼	15	—	15
婦人科的疾患	—	180	180
皮膚科的疾患	7	2	9
他科的疾患	65	42	107
泌尿器科的正常	871	282	1153
不参(検査中断)	16	9	25
計	1008	564	1572
7表~13表総計	2452	1061	3513
実 数	2447	1056	3503

第14表 入院患者主要疾患

入院患者総数	232	
疾患総数	248	
前立腺腫瘍	58	23.4%
腎及び尿管結石	28	11.3%
内分泌疾患	24	9.7%
膀胱腫瘍	18	7.2%
腎結核	17	6.9%
腎腫瘍	4	1.6%
その他	99	39.9%

第15表 腎及び尿管の疾患（入院患者）

疾 患 名	例 数
腎結核	17
腎結石	15
尿管結石	13
水腎症	7
尿管膀胱外開口	5
腎及び腎盂腫瘍	4
尿管瘤	4
腎嚢胞	3
尿管腫瘍	2
腎盂尿管移行部狭窄	2
腎盂腎炎	2
腎外傷	2
膀胱尿管逆流現象	2
嚢胞腎	2
遊走腎	2
膿腎症	1
慢性腎炎	1
腎性侏儒	1
腎無形成	1
腎減形成	1
尿管狭窄	1
計	88

第16表 膀胱疾患（入院患者）

疾 患 名	例数	疾 患 名	例数
膀胱腫瘍	18	膀胱腫直腸瘻	1
膀胱結石	9	膀胱直腸瘻	1
脊髄膀胱	4	膀胱炎	2
エンドメトリオーゼ	2	計	38
膀胱憩室	1		

第17表 尿道疾患（入院患者）

疾 患 名	例 数	疾 患 名	例 数
尿道狭窄	4	尿道脱	1
尿道下裂	3	計	9
尿道外傷	1		

第18表 男性性器疾患（入院患者）

疾 患 名	例数	疾 患 名	例数
前立腺肥大症	40	陰茎癌	1
前立腺瘤	18	単睾丸症	1
前立腺炎	2	副睾丸結核	2
前立腺結石	1	副睾丸炎	1
前立腺症	1	計	68
メディアンバー	1		

第19表 内分泌疾患及びその他（入院患者）

疾 患 名	例 数
男性仮性半陰陽	6
女性仮性半陰陽	5
真性半陰陽	3
クッシング氏症候群	2
副腎性器症候群	1
クラインフェルター症候群	2
類宦官症	1
アルドステロニズム	2
褐色細胞腫	1
睾丸女性化症候群	1
停留睾丸	3
睾丸腫瘍	6
腹部腫瘍	2
後腹膜腫瘍	2
陰茎欠損	1
陰茎癌術後	1
夜尿症	1
陰嚢ガス壊疽	1
血 尿	1
乳糜尿	1
背 部ノイリノーム	1
正 常	2
計	46

第20表 入院患者の手術術式

手術術式	例数
副腎剔除術	6
腎剔除	32
腎盂形成術	9
腎周囲膿瘍切開	1
腎部分剔除	2
嚢胞剔除	3
腎生検	2
腎盂切石術	2
腎固定術	2
被膜剝離	2
ポアリー氏術	3
尿管切石術	14
尿管管生検	1
バスケットカテーテル	4
尿管剔除術	1
尿管瘻術	1
尿管口切開	2
尿管カテーテル法	3
尿管形成術	2
経尿道のラドン針打込	1
膀胱高位切開ラドン針打込	11
膀胱瘻術	6
T. U. C.	6
碎石術	3
T. U. R. (膀胱)	2
憩室剔除	1
膀胱部分剔除	4
切石術 (膀胱)	4
膀胱全剔除	1
T. U. R. (前立腺)	11
前立腺剔除術	25
前立腺生検	4
タンボン除去	4
前立腺結石除去	1
陰茎形成術	3
陰茎癌根治手術	2
陰茎剔除術	1
陰茎生検	1
試験手術	16
尿道形成術	12
索切除	2
尿道内視鏡	2
尿道脱切除	1

除睾術	15
睾丸固定術	5
睾丸生検	1
副睾丸剔除	1
瘻孔閉鎖術	19
人工肛門閉鎖術	1
下腹部腫瘍剔除	2
リンパ腺廓清術	3
ガスエソ手術	3
T. U. R. (膀胱腫瘍)	1
乳腺剔除術	3
外陰形成	2
子宮口剔除	1
計	273

第21表 内視鏡的操作と小手術

処置名	例数
A) 内視鏡的操作	450
イ) 電気凝固及び切除	20
ロ) 膀胱碎術石	8
ハ) 尿管カテーテル法 (球頭カテーテルを含む)	326
ニ) その他 (バスケット・カテーテルを含む)	96
B) 血管撮影術	42
C) 小手術	425
イ) 腹膜後腔気体送込法	88
ロ) 包茎手術	48
ハ) 副睾丸剔除術	20
一右	11
一左	8
一両側	1
ニ) 除睾術	4
一右	2
一左	2
ホ) ウィンケルマン氏手術	11
ヘ) 試験切片	95
ト) 精管切断術	15
チ) 電気凝固術	62
リ) 精嚢腺撮影術	16
ス) その他	42

る。

4. 前立腺腫瘍及びその他の前立腺疾患

前立腺肥大症の中にははっきりと肥大し直腸診でかなり大きいもの、又それ程でなくとも尿道撮影、なるべく尿道鏡検査を行い、腺腫を認めたならば前立腺肥大症と

して記載した。ある程度の排尿困難の症状をもち乍ら上記の腺腫の疑い程度のものを前立腺症と記載した。又排尿困難は主症状でなく会陰部の不快感等が主症状の場合、前立腺分泌液中に白血球の多くみられる時これを慢性前立腺炎及び類似症状として記載した。これは87名にのぼる。この場合前立腺生検にて正常前立腺組織を示すことはかなり多く、病理学的な意味で前立腺炎とは診断しえないことを考慮してこの様に分類した。

5. 淋疾及び関係事項

男子及び女子の急性淋疾の数は更に減少して来た。現在に於ては一般に治療が進んでいるので慢性淋疾は全くみられていない。

6. その他の疾患

泌尿生殖器結核、尿路結石、非結核性膀胱炎、前立腺腫瘍、淋疾関係を除いた外来患者について主として臓器別に分類したものが第7表より第18表に示した諸疾患である。

(イ) 腎及び尿管の疾患

水腎症の場合に婦人科手術に起因せる尿管狭窄による場合や、小児の先天的尿管狭窄による場合、尿管狭窄と二重には記載せず水腎症としてある。又腎結石に腎盂腎炎が加わっているとき腎結石とし、尿管逆流による腎盂腎炎は腎盂腎炎として記載した。

(ロ) 膀胱疾患

膀胱腫瘍は計79例、神経因性膀胱63例、その他 Fistula 9例が主なものとなっている。

(ハ) 尿道疾患

単純性尿道炎は 173例でかなり多く、淋疾治療直後に残存した尿道炎を除いたものである。尿道狭窄もはつきりと淋疾によると思われるものはすべて本項目中に入れた。

(ニ) 睪丸、副睪丸、精囊腺疾患

男子不妊症を訴えた症例は132名で、その内訳は無精子症64例、乏精子症53名(減精子症)、未検査15名であつた。

(ホ) 陰茎、陰囊及び女子外陰部疾患

類宦官症中にクラインエルター氏症候群を含有せしめた。女性仮性半陰陽の11例の大部分は兄の母がその妊娠中に黄体ホルモンを使用した例が多い。真性半陰陽はこの分類上では3例共男子として育てることになったので

男の方に分類してある。

(ヘ) その他の疾患

陰萎は性的神経症の中に含ませた。本項目中には症状を病名としている例が多いが、これは検査途中で中断したもの、又は診断が未だ確定していない例である。高血圧診療も軌道にのつて来た感がある。

III. 入院患者

1962年度の入院患者総数は 232名で疾患総数は 248である。

入院患者総数に対する主要疾患の症例数及び百分率は前立腺腫瘍58例(23.4%)、腎及び尿管結石28例(11.3%)、内分泌疾患24例(9.7%)、膀胱腫瘍18例(7.2%)、腎結核17例(6.9%)、腎腫瘍4例(1.6%)、その他99例(39.9%)で水腎症、腎性高血圧、腎盂腎炎等種々の疾患を入院せしめた。

入院患者の疾患を臓器別に分けると第15表より第19表迄に示した如くである。

1. 腎及び尿管の疾患

上記した如く、腎及び尿管結石、腎結核、腎腫瘍の他に水腎症7例、その他を入院せしめた。

2. 膀胱疾患

膀胱腫瘍の他に膀胱結石9例、脊髄膀胱4例、エンドメトリオーゼ2例を入院せしめた。

3. 尿道疾患、男性性器疾患

前立腺肥大症40例、前立腺癌18例が主である。

4. 内分泌疾患及びその他

各種の内分泌疾患の診療が最近とみに盛んとなり、第19表に示す如き症例数を入院せしめた。

IV. 入院患者に施行せる手術の統計的観察

1962年度の入院患者手術施行例の内訳を第20表に示す。

V. 内視鏡的操作と小手術

入院患者に対する内視鏡的検査、バスケットカテーテル法による拙石術、及び外来に於て施行した内視鏡的操作及び小手術を第21表に示す。

VI. 総括並びに結論

東京大学泌尿器科教室における1962年度外来患者、入院患者の統計的観察を行った。

(昭和38年3月31日受付)